金光教祖のみ教え

市村光五郎（いちむらみつごろう）の伝え⑬

「信心に連れがいるといえども、連れはいらぬぞ。ひとり信心なり。信心に連れがいれば、死ぬるにも連れがいるが、みな逃げておるぞ。」

もうすぐお盆です。金光教にはお盆の行事はありません。ですが、ご信者の皆様方も、お盆にはお墓参りに行かれたり、ことさらにご先祖様への思いを強く感じられる時期であられると思います。私自身は、伝統ある宗教儀礼が好きな為、お盆の時期は毎年欠かさず、「四天王寺さん」の万灯供養に、期間中はほぼ毎日出掛けます。

お盆が過ぎると、日差しにも秋を感じる様になり、９月には秋のお彼岸の時期を迎えます。

彼岸とは、毎年９月の秋分の日を中日として、その前後３日間、計７日間にわたって行われる日本の行事です。「彼岸」とはサンスクリット語の「パーラミタ（到彼岸）」を語源とし、煩悩の世界＝此岸（しがん）から、悟りの世界＝彼岸に至るという意味を持っているそうですが、この時期には、先祖の霊を供養し、お墓参りをするのが一般的です。太陽が真東から昇り、真西に沈む秋分の日は、「此岸」と「彼岸」がもっとも近づく時期とされ、霊と心を通わせるのに最適な日と信じられてきました。金光教ではこの時期に霊祭を仕え、亡き人々の魂に感謝を捧げるとともに、自分自身の生き方を見つめ直す機会としています。

私達がこの世に生まれ、今日まで生きてこられたのは、数え切れないほどのご先祖様たちのおかげです。顔も名前も知らない遠い時代の方々であっても、その一人ひとりが命をつなぎ、日々を生き抜いてくださったからこそ、今の私たちが居ます。

ご先祖様たちは、決して裕福でも便利でもなかった時代を、家族や子どもたちの未来を願いながら懸命に生きてこられました。戦争や飢え、災害の中でも希望を失わず、家族を守り抜いたその姿に、深い敬意を抱かずにはいられません。そのようなご先祖の恩を思えば、ただ黙って、すごずことなどできません。手を合わせ、心を込めて感謝を伝えたい。その想いは、自然と先祖供養というかたちになって現れます。ご先祖様への感謝は、自分がどこから来たのか、何のために生きるのかを教えてくれる道しるべであり、だからこそ、信仰の道を歩む私たちにとって、先祖供養は欠かすことのできない尊い行いなのです。

先祖を思う心を未来へと繋ぐために、霊祭には、どうぞご家族でご参拝ください。信徒の方も、どうぞお参りください。ご祭典は、秋分の日（祝日）の午前 10 時半からとなります。（祝日ですので、教会前道路は、車での通行は可能です。）